令和五年　第二回例会

観世流

緑泉会

令和五年
五月二十八日（日）
午後一時開演
矢来能楽堂

舞囃子 Maibayashi　雲林院 Unrin-in ……墨　敬子

狂言 Kyougen …蚊相撲 Kazumoh ……野村　万作

能 Noh ……草子洗小町 Soushiaraikomachi……坂　真太郎

「草子洗小町」シテ 坂 真次郎（撮影 吉越スタジオ）

令和五年　第二回例会　番組

舞囃子　**雲林院**　墨　敬子

大鼓　柿原　光博　小鼓　森　貴史　太鼓　林　雄一郎　笛　熊本　俊太郎

地謡　筒井　陽子　中森　健之介　桑田　貴志　新井　麻衣子

狂言　**蚊相撲**

大名　野村　万作　太郎冠者　月崎　晴夫　蚊ノ精　岡　聡史　後見　高野　和憲

【休憩二十分】

仕舞　**頼政**　津村　禮次郎

地謡　桑田　貴志　中所　宜夫　中森　貫太　鈴木　啓吾

能　**草子洗小町**

王　坂　賀子　官女　筒井　陽子　官女　新井　麻衣子　河内躬恒　金子　仁智翔　壬生忠岑　石井　寛人　紀貫之　永島　充　小野小町　坂　真太郎　大伴黒主　殿田　謙吉　黒主ノ下人　飯田　豪

大鼓　柿原　光博　小鼓　森　貴史　笛　熊本　俊太郎

地謡　藤村　答　中森　貫太　吉留　敬高　津村　禮次郎　鈴木　啓吾　中所　宜夫

後見　中森　健之介　奥川　恒治

付祝言

【終了予定　午後四時三十分】

許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切り下さい。
演能や他のお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場頂く事もございますのでご了承下さい。

舞囃子…雲林院（うんりんいん）

伊勢物語の愛好者・芦屋公光（もしやのきんみつ）が、夢に導かれて都紫野の雲林院を訪ねると、その夢枕に在原業平が現れる。舞囃子は、公光に請われて伊勢物語の故事を語る場面で、光源氏の弘徽殿の出来事さえ業平のことのように謡われて始まり、二条后（にじょうのきさき）との逃避行の有様を曲舞に舞い、続けて宮中での夜遊の舞を太鼓入り序之舞に再現する。伊勢物語の品々は夜通し尽きることなく語られ、夜明けとともに夢は覚める。

狂言…蚊相撲（かずもう）

大名がただ二人の家来である太郎冠者に命じて、新たな家来を召し抱えようとするが、太郎冠者が連れてきたのは蚊の精だった。大名みずからこの蚊の精と相撲をとることとなるが…。

蚊の精は江州守山の者と名乗るが、守山は、蚊帳の産地でもあり、相撲も盛んであったらしい。

仕舞…頼政（よりまさ）

諸国一見の僧が都から宇治にやって来て、平等院に案内され、扇の芝の故事から、この地で平家に討たれた源頼政の跡を弔っていると、夢に頼政が現れる。

この宇治川合戦の子細を語る長大な仕舞は、ほとんどを床几にかけて舞う特殊な舞となっている。

三井寺を目指した一行だが、宮（以仁王）が落馬を繰り返すので、一旦平等院に引き、宇治橋を落して平家の軍勢を待ち構える。川を挟んで対峙する源平の軍勢、先陣を争う忠綱の勇武が描かれ、そして押し寄せる平家の軍勢に、頼政は子供二人も討たれてしまい、平等院の庭の芝に扇を敷いて自害する。

能…草子洗小町（そうしあらいこまち）

内裏での歌合会前夜のこと、大伴黒主（おおとものくろぬし）（ワキ）は相手が小野小町では到底勝てないと思い、小町の私宅へ忍び入る。小町は庭を眺めつつ、歌合の詠題「水辺（すい）の草」を頼りに一首を吟ずる。

蒔かなくに何を種とて浮草の
　　波のうねうね生い茂るらん

同行した下人（間狂言）などは、聞いても分からないような歌だったが、黒主は真価を理解し、この歌を万葉の草子に書き込み、小町の不正を言い立てて歌合に勝とうと企む。

一夜明けて宮中の歌合が始まろうとしている。帝（子方）小野小町（シテ）河内躬恒（おおちのみつね）と壬生忠岑（みぶのただみね）（男ツレ）女官二人（女ツレ）、そして紀貫之（主ツレ）と大伴黒主（ワキ）が立ち並ぶ賑やかさ。貫之が進み出て柿本人麿の歌「ほのぼのと明石の浦の朝霧に島隠れ行く舟をしぞ思う」を朗詠して顕彰すれば、この歌の情景ばかりでなく、古来よりの歌道の営みまで思いやられて、ほのぼのと心浮き立つ。

いよいよ宣旨が下されて小町の歌が読み上げられた。帝から最上の歌と評されるが、黒主より、万葉集に同じ歌があると訴えがあり、小町は窮地に立たされる。万葉を知り尽くす小町は納得できず言い争うが、証拠の草子を示されて件（くだん）の歌が詠み上げられると、とても平静でいられない。

進退窮まる中、草子を取り上げた小町は、その歌だけ文字の様子が異なるのを見て、黒主の画策に思い至る。

大胆にも草子を洗ってみたいと申し出ると、最初は失敗するとますます面目を失うと心配した貫之だったが、小町の悲しむ有様に同情して奏上の労を取る。帝の許しを得て小町は草子を洗う。

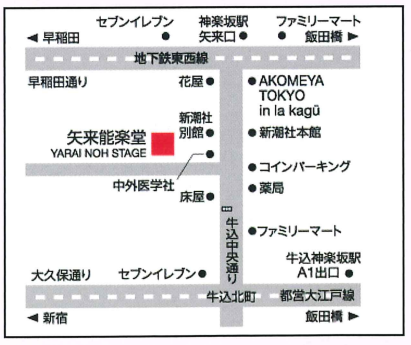
紀伊国和歌の浦の藻塩草を波が洗うように草子を洗いましょう、と言いつつ、小町は洗い物尽しを唱える。七夕には年に一度の逢瀬の涙に濡れる衣を洗い、花に着飾る袂には洗ってもなお梅香が残る。雁の翼に託された文も後を辿らなければ真相は判らない。故事や詩歌の中でも洗うことは行動としても示され、比喩としても多く述べられているのだから、春の歌、冬の歌、恋の歌、仏教の歌、神代の歌と皆洗いましょう。時雨が紅葉を洗い、住吉の松を白波が洗うように、草子を洗ってみると、他は何も変らないのに浮草の歌だけは一字も残らず消えてしまった。小町は疑いを晴らした喜びに、神仏先達に感謝を捧げ、帝に草子を高く示す。

悪事が露見した黒主は自害をしようと座を立つが、小町は、歌道に精進する者が陥りがちな道なのだから、自分一人残ることは歌の友としては本意ではない、と呼び止める。帝からも許されて黒主は座に戻り、このめでたい一時に小町は舞を添える。春ののどかさのように国は治まり、和歌の道も栄えている。何とめでたいことだろう。

2023.
5.28（日）**PM1:00**（開場 **12:00**）
矢来能楽堂

〒162-0805 新宿区矢来町 60
☎ 03-3268-7311

地下鉄東西線神楽坂駅下車　矢来口より徒歩２分
都営大江戸線牛込神楽坂駅　A1 出口より徒歩５分
駐車場はございません。
近隣のコイン駐車場をご利用下さい。



入場料（全自由席）

会員券（年４回）	一般	20,000 円	学生	10,000 円
１回券（当日券）	一般	6,000 円	学生	3,000 円

申込先：各出演能楽師または緑泉会まで

墨　敬子	TEL&FAX	045-544-6787
坂 真太郎	TEL	03-3873-5404
	FAX	03-3873-5635

令和5年 第３回例会 2023年9月18日（月祝）
舞囃子 … 熊野 Yuya …… 津村 禮次郎
能 …… 絵馬 Ema …… 桑田　貴志

喜多能楽堂は大規模改修工事中のため、例会会場が矢来能楽堂に変更となります。ご了承ください。